

IDE(統合開発環境)を使う

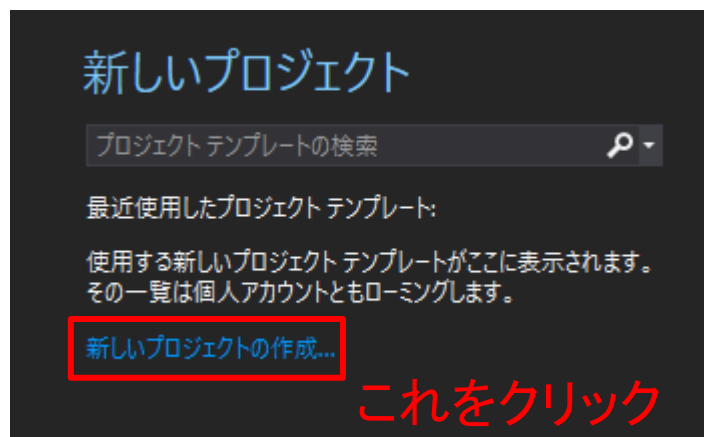
Visual Studio 2017の場合

起動しよう

1. スタートメニュー → Visual Studio 2017
2. ようこそ。は「後で行う。」で飛ばす
3. 慣れた環境で開始しますは任意
推奨: 開発設定 は 全般、配色 は 濃色
4. Visual Studioを開始

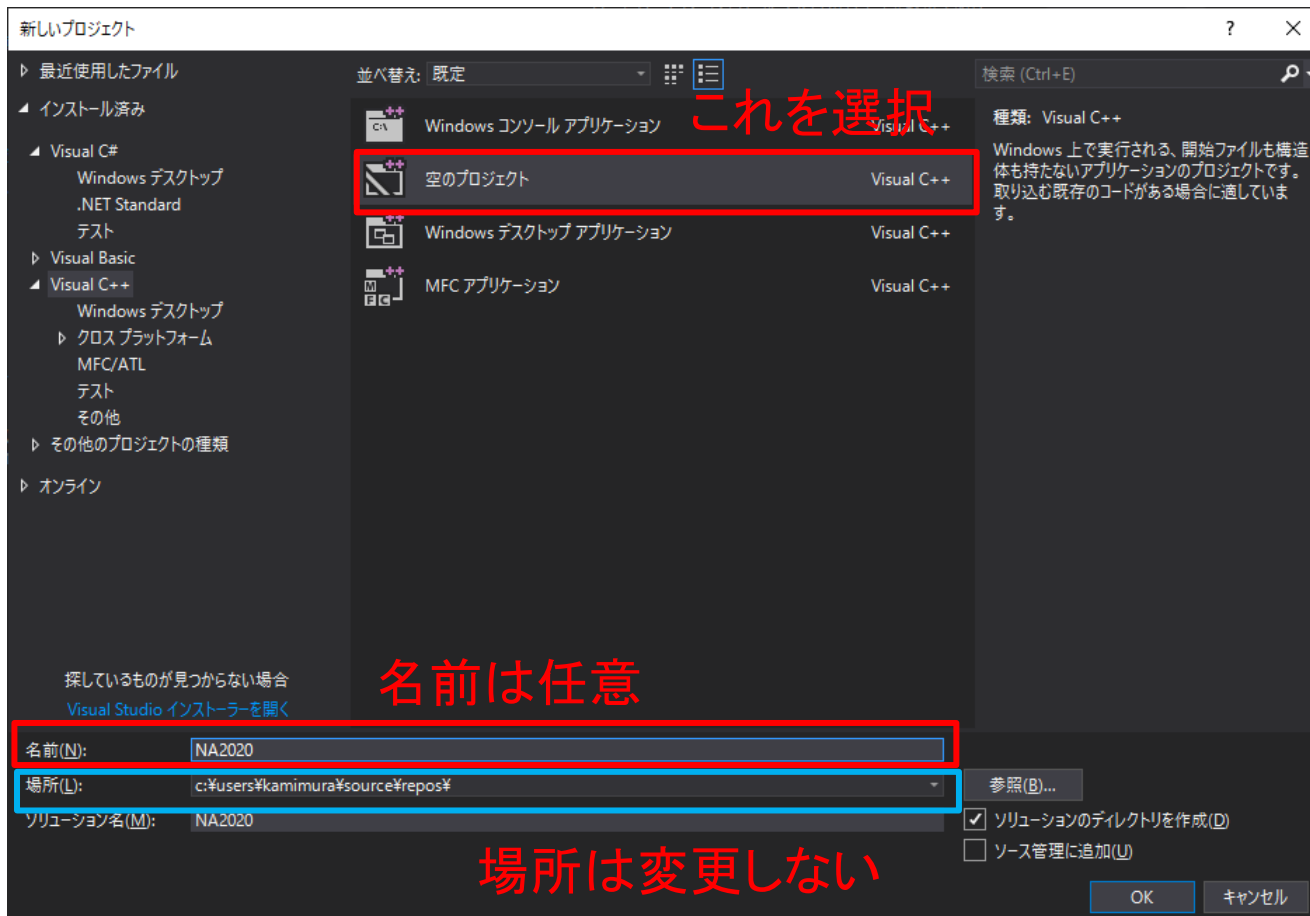
プロジェクトを作ろう

1. 画面中ほどの新しいプロジェクト
→ 新しいプロジェクトの作成



プロジェクトを作ろう

2. Visual C++の空のプロジェクトを作成



補足

- Windowsコンソールアプリケーションじゃダメ？

C++の文法で書かれたHello Worldが表示される
ヘッダがiostream(C++)
プリコンパイル済みヘッダが導入される

以上3つが理解できて、問題ないと思えるならOK。

プロジェクトにソースを加えよう

- 新規の場合

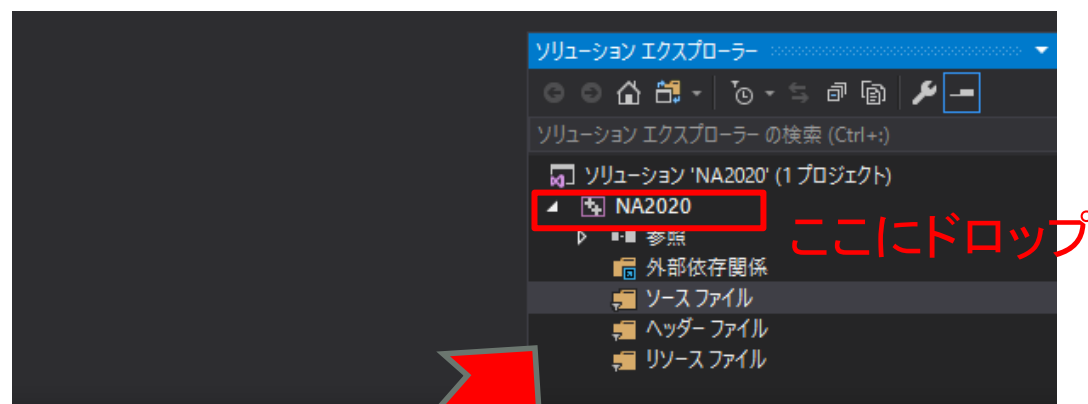
ソースファイルのフォルダを右クリックして、
追加 → 新しい項目

- 既存のファイルの場合

プロジェクトにドラッグ&ドロップ

プロジェクトにソースを加えよう

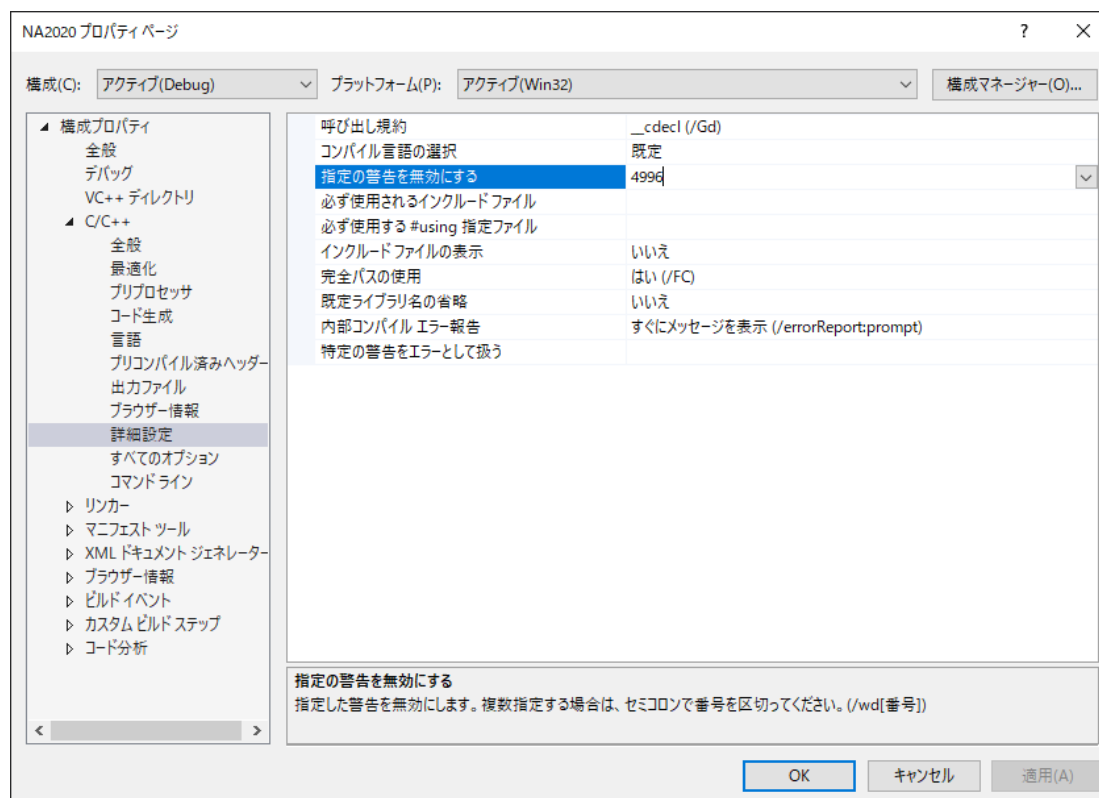
- 既存のファイルの場合
プロジェクトにドラッグ&ドロップ



※ プロジェクトと同じフォルダに先に入れておくと
場所で混乱しない

プロジェクトのプロパティを編集

1. プロジェクト(先程のスライドだとNA2020)を右クリックしてプロパティを出す
2. C/C++ → 詳細設定 → 指定の警告を無効にするに「4996」を指定



C4996の警告は何？

- セキュリティリスクがある関数を使っているという警告
- scanf_s(C89には存在しない関数)などを使えということ

エラーにはuse _CRT_SECURE_NO_WARNINGS って書いてあるけど？

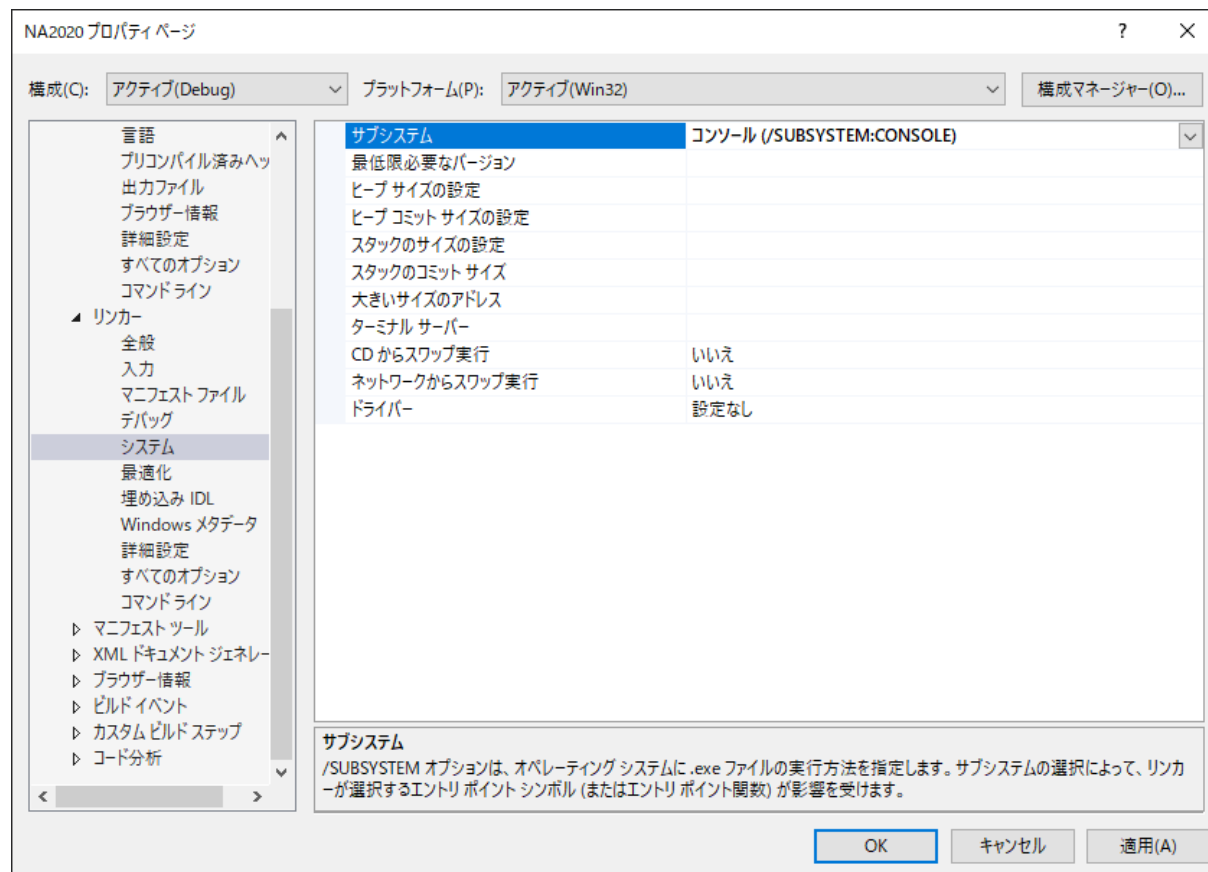
→ ソースコードに

```
#define _CRT_SECURE_NO_WARNINGS
```

でも良いし、プリプロセッサ定義に追記しても良い。

プロジェクトのプロパティを編集

3. リンカー → システム → サブシステムに「コンソール」を指定

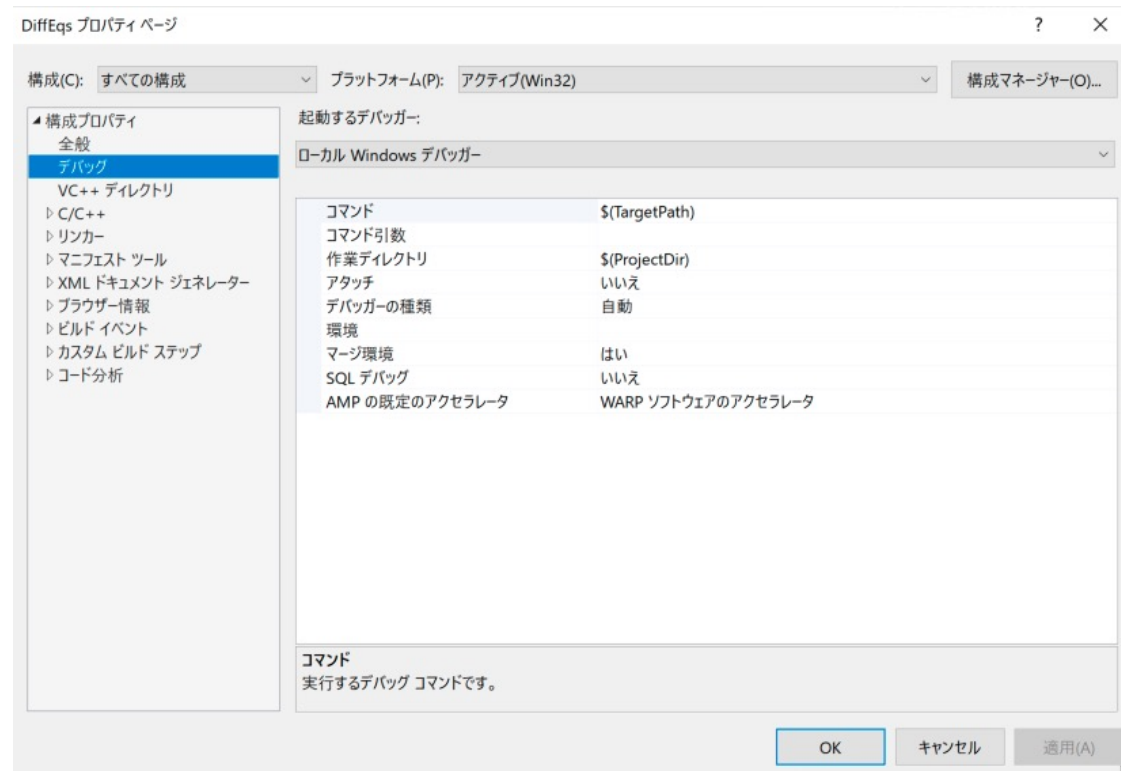


サブシステム: コンソール

- エントリーポイントなどを決定する仕組み
- コンソールを指定しておけば「コマンドプロンプトがいきなり閉じなくて便利」ぐらいの認識で大丈夫

実行する

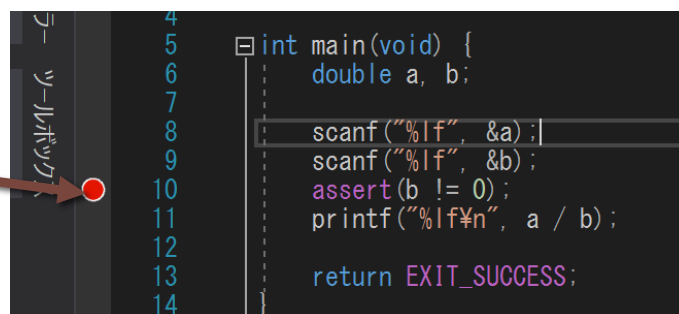
- F5でデバッグが開始される
- 実行時のカレントディレクトリは、プロジェクトディレクトリ
- コマンドライン引数はプロパティ→デバッグ→コマンド引数で指定



Debugしよう

1. ブレークポイントをつける

行番号左欄外をクリック



2. ウォッチを使う

ローカル			▼	🔍	×
名前	値	種類			
🔍 a		double			
🔍 b	0.0000000000000000	double			

変数の値を見たり、書き換えたりできる。
表示されない時は デバッグ-> ウィンドウ → ウォッチ

最後にプロジェクトをバックアップしよう

1. C:¥Users¥(ユーザ名)¥sourceのフォルダはログオフ時に保存されるが、容量や通信の関係で正しく保存されないことがある。
2. 上記を丸ごとUSBメモリやXドライブ(ホーム)にコピーしてバックアップしておこう。
3. 上記のフォルダにいないプロジェクトがあるときは、そこから消すとともに、X:¥profile.V6¥sourceからも消すこと。